

平成29年度第1回南あわじ市総合教育会議会議録

1. 日 時 平成29年5月25日(木)

午後3時00分開会

午後4時40分閉会

2. 場 所 南あわじ市役所 本館 304・305会議室

3. 協議事項

(1) 学校・幼稚園の再編について

(2) 教員の資質向上について

(3) 今後の南あわじ市の教育について

4. 出席又は欠席した構成員氏名

出席構成員

<南あわじ市>

南あわじ市長 守本 憲弘

教育長職務代理者 宮崎 典弘

教育委員 岡 一秀

教育長 浅井 伸行

教育委員 轟 孝博

教育委員 数田 久美子

<学校組合>

管理者 守本 憲弘(兼務)

教育長職務代理者 山下 富弘

教育委員 宮崎 典弘(兼務)

教育長 浅井 伸行(兼務)

教育委員 岡 一秀(兼務)

教育委員 河上 和慶

5. 事務局関係職員氏名

企画部長 堤 省司

教育次長 福原 敬二

学校教育課長 山川 直樹

体育青少年課長 松本 典浩

教育総務課課長補佐 坂田 真由美

ふるさと創生課長 柴井 賢次

教育総務課長 山見 嘉啓

社会教育課長 福田 龍八

中央公民館長 永田 加織

教育総務課係長 新地 美里

開 会 午後3時00分

【山見教育総務課長】 失礼いたします。

全員お揃いのおようですので、只今より、平成29年度第1回南あわじ市総合教育会議を始めたいと思います。

まず、主催者であります守本市長より、ご挨拶をよろしく申し上げます。

【守本市長】 守本でございます。

今日です、平成29年度第1回の南あわじ市総合教育会議ということでございますけれども、教育委員会の方も新しい体制になってからの第1回ということでございます。大変お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

私自身もこの総合教育会議は初めてのことで、いろいろ拙い面もあるかと思っておりますけれども、南あわじ市の教育の大きな方針を決めていくという、非常に重要な会議であるというふうに認識をしております。

また、議題の方にも協議事項ありますけれども、学校・幼稚園の再編ですとか、教員の資質向上、そして、南あわじ市の教育の全般という非常に重い課題も含めましてです、ご協議をいただくということでございます。

従ってです、私自身はできるだけ委員の先生方には、ご自由にといいますか、丁寧にご議論をいただいて、納得の得られるような形で方針を決めさせていただいたというふうに思っております。いろいろと進め方について、お気づきの点がありましたら、それに対するご意見もいただきながら進めていきたいと思っておりますので、本日はどうぞよろしくお願いをいたします。

(山見教育総務課長より、出席者の紹介)

【山見教育総務課長】 次に本日の協議事項に入りますが、進行は守本市長さんの方でよろしく申し上げます。

事務局の方で、それぞれの項目ごとに説明を申し上げたいと思います。

それでは、よろしくお願いをいたします。

【守本市長】 それでは議長ということで、進めさせていただきたいと思っております。

各議題の順番ごとにご説明をいただいて、審議をしていただくという形で進めさせていただきたいと思っております。

まず第1に、「学校・幼稚園の再編」でございます。

これは、私が伺ったところ平成23年4月に教育委員会で「南あわじ市教育施設再編基本計画」というところで、小中学校の再編計画において、1つは灘小学校と阿万

小学校が統合、2つ目としまして、辰美中学校は御原中学校と統合しますと。これは、平成25年4月から辰美中学校と御原中学校が統合して、西淡中学校としてスタートし、また平成27年4月からは、灘小学校が阿万小学校と統合するという形で、阿万小学校の地で学んでいるということでございます。

しかしながら、同時にその時に再編を検討しました三原志知小学校と西淡志知小学校との統合、倭文中学校は広田中学校と統合、沼島中学校は南淡中学校と統合。この3つについては、保護者の理解が完全に得られないということで、進んでいないということでございます。

これらについて、今後どういうふうを考えていくかという点でございます。

まずは、事務局側から説明するというところでよろしいか。

【浅井教育長】 私の方から、「(1) 学校・幼稚園の再編について」説明をさせていただきます。

別の資料がありますので、「小中学校及び幼稚園・こども園等の再編について」という資料をご覧ください。

これは、残っております4件について基本的な考え方を示しております。それぞれの4件について「1 方針」「2 理由」「3 その他」という形で整理分けをしております。

具体的には、「1. 津井幼稚園について」でございます。

方針は、当面は存続する。理由は、辰美小学校と津井幼稚園は非常に近い場所にあると。幼小連携が非常に取りやすいと。更にそういうふうな連携を深めていくことが子どもたちにとってよりメリットがあるだろうと。という理由で当面は存続するという方針を出させてもらいました。理由の②番の辰美小学校区は広範囲であるとか、③の保護者の通勤経路と送迎経路が異なるとか、伊加利への道路事業が悪いというような事情もございます。ただ当面は存続するということにつきましては、その他のところで書いておりますけれども、保護者や町づくり協議会に今まで以上に園児を増やすことに努めてもらいたいというような働き掛けも、教育委員会としてはしていきたいというふうに思っております。

「2. 三原志知小学校及び西淡志知小学校について」であります。

方針については、三原志知小学校については、市小学校との再編を進める。西淡志知小学校については、松帆小学校との再編を進める。このような方向で進めたいと思っております。

理由につきましては、子どもたちの成長にとって何よりも多くの子どもたちの中で多様な子どもたちと関わっていくことのメリットの方が大きいというふうに考えて、そのような方針でいきたいというふうに思っております。また、両校を統合しても10年先、それから後のことを考えると、また同じような再編の考えも出てくるとか。

③の両校とも校舎の老朽化が進んでおり、大規模改修の時期が来ている。また、④の両校とも市の中心街の近くにあり、他校に統合されても地域の活性化が損なわれることが少ないのではないかと。そのようなことも含めて方針をあげさせていただきました。

ただ、それに関係して保護者等の意見をお聴きしたときに、松帆小学校への再編については、松帆小学校が低地帯にあり、大雨が降った時等については少し心配があるというふうな話も出されましたけれども、松帆小学校は校舎の耐震化も進んでおりますし、地震等が起きましても垂直避難で十分に対応できる、というようなことも考えております。

ただ、両校とも交通量の非常に多い場所になりますので、通学に関してはスクールバスの検討も必要でないかというようなことも考えております。

再編後の校舎の利用については、どちらか一方にて、教育センター等の利用ができたかと考えております。

次に「3. 倭文中学校について」であります。

方針は、当面は存続すると。理由は、小規模校のメリットを最大限に活かしていきたいと考えております。そんな中で、倭文中学校の生徒が他地区の中学校に行っているというふうなことが続いております。それは、自分のやりたい部活動が小規模校のためにやれないというようなことが大きな原因でございます。ですからそのために、広田中学校との合同のクラブ活動の仕組みを検討していきたいと考えております。これは、文化部、運動部共に合同部活動という形の対応ができたかと考えております。あと存続の理由として、保護者の意見が非常に多いとか、出ていくところが広田中学校と三原中学校というようなところに統合先の意見が分かれるということもあります。そういったことがありまして、当面は存続するという形でいきたいと思っております。

先ほどの説明の中で、課題として広田中学校と合同部活動をするにあたっては、送迎バス等の配慮も必要と考えております。

次に「4. 沼島中学校について」でございます。

方針は、当面は存続すると。理由として、小中一貫校というような形で、魅力ある学校づくりをする最適の場所だと。小学校と中学校が非常に近い、隣接していると。小中一貫の効果を最大限に活かせる場所が、沼島小中学校ではないかと考えております。小中一貫教育というようなところで、当面は存続させていきたいというふうに考えております。その中で、外に対しても魅力ある学校づくり、例えば、そこに行けば特科して英語が徹底的に学べる、英会話ができる生徒を送り出していく。本年度、タブレットを配布したところですが、そのタブレットを活用して全世界に情報発信をしていけるような情報活用能力を高めるとか、外部からみても非常に魅力のある学校づくりをしていきたいと考えております。あと存続させるというようなことで、保護者の意見が多いというふうなこともございます。

また、沼島小中学校の児童生徒を増やすことに努めていきたいと考えております。その方法として、通学区域制度の弾力的な運用によって、市内全域を校区とし、離島通学や離島留学等の実施を検討も考えております。そういうふうなことを進めるにあたって、通学対策、助成であるとか、天候が悪い時の対応として、沼島での宿泊や食事等の検討もこれから必要でないかと考えております。

また、津井幼稚園と同じように地元のバックアップ体制というようなものも、地元の方々に教育委員会として申入れしていきたいと、働きかけていきたいと思っております。

以上、4件についての考え方を説明させていただきました。

【守本市長】 ありがとうございます。

今、教育委員会としての考え方に対しまして、ご質問、ご意見等がございましたらお願いしたいと思います。

非常に難しい問題だと思いますので、別に「こうだ。」という方向を決めていなくても、いろんな観点からのご審議をいただければと思います。

【岡委員】 私自身は、西淡志知小学校の校区に住んでおります。三原志知と西淡志知に分かれたのが、私が小学校2年生の時です。別れた時の時代の人間が我々世代で、まだいろいろあります。放り出されてというのはおかしいのですが、西淡志知の方が出てきたという感じでおるのですが、いろいろ地域でも話があるのですが、松帆との統合に反対という人も中にはおります。

しかし、私自身は、冒頭に教育長からもあったように、子どもたちのために、ということからいうと、大勢の人間の中で活動させてやりたいなという、その方が地元のために、将来のためになっていくのではないかと思います。いろいろな人をみてきたら、それだけ子どもも成長するのではないかと思います。

松帆小学校は、私も最終、校長で勤めておりました、その時に新しい校舎の建築に携わったのですが、すばらしい本館ができておりますので、安心して3階スペースが、今ランチルームであるのですが、避難ができるスペースが十分に確保されておりますので、私自身は、地元の方に怒られるかもわかりませんが、できたら大きいところで学ばせてやりたいなという思いがあります。

この西淡志知小学校とは違って、倭文中学校と沼島中学校はものすごく人数が少ないですね。中学校の現場で教職としてやってきた中で、中学校は部活動で揉まれるというところが大きいと思いますので、この中学校で少人数というのが、子どもたちのために本当になるのかな、という思いでいつもこの議題が出たら思っているところがございます。教育長の説明の中で、存続する理由も納得できる場所もあるわけなのですが、できたら大勢の中で小さい時から入って、揉まれた方がいいのではないかと

という思いでいつもおります。

以上です。

【守本市長】 他にはいかがですか。

【數田委員】 私は、倭文中学校の出身で、岡先生と同じように、あれは昭和33年でしたかね、倭文村に8地区あったのが、3つと5つに分かれて、緑町に5つ、三原町に3つに分かれたとお聴きしたのですが。結局それは何であったかということは、子どもであったのでよくは覚えていないのですが、その名残で倭文中学校から三原中学校や広田中学校に行っているのではないかと思うのですが、どのくらいの子どもたちが、倭文中学校から外に出ているのか知りたいと思います。

小学校から中学校に行くときに、保護者からいろんな相談を受ける中に、校区外に出たときにトラブルがあって、不登校になっていろいろまういなくなっただけでも聴いておりますし、できたら揃ってどちらかへ行く方が将来的に、高校に行ったらまた別れるのですが、中途半端にバラバラに、あちこち行くのはどうなのだろうと。

それと受け入れる側も、生徒指導をするとき、いろいろ難しいところがあり、そこに馴染めたらいいのですが生徒指導上の課題が、いろいろとあると聴いております。だから、子どもたちの願いというか、やりたいことが多様化しておりますので、できるだけ受け入れる側もいろんなことを考えていく必要があるのではないかと思います。

【守本市長】 ありがとうございます。他にございますでしょうか。

【轟委員】 岡先生や數田先生とほとんど同じような意見なのですが、特に沼島中学校のことですが、沼島の子どもたちは、「オギャー」と生まれてから15歳、高等学校に行くまで、ずっと同じ地域で外に出ることなく生活していることは、子どもたちに対して、ちょっとかわいそうではないかと思うのです。前にも教育委員会定例会で話をしたのですが、本当に沼島の子どもたちというのは、真っ白なのですね。汚れを知らない子どもで、私が三原高校に勤務していたときですけれども、真っ白で高等学校に入ってきます。そして、高校3年間でいろんな色に染まって出ていくわけですが、よい色で染まってくれたら有難いのですが、人間的な付き合いとか、そういうことをほとんどせずに真っ白で来るものですから、見る物見る物珍しくて、やはり大海を知らないというような形の生徒になるのではないかと思うのです。5人や6人の生徒でずっと9年間の教育をしていくというのはどうかと。

この前も沼島中学校の卒業式に行かせていただいて、卒業生が1人だったわけです。地元の議員とも船で一緒になりまして、いろいろ話をしたのですが、「何とかこの沼島の子どもたちを広い地域にやってもらえないだろうか。」と。沼島から土生までは、船

で10分だと。土生から南淡中学校に通うのは、灘の子どもたちはみんな通っていると。もっと来川とか遠いところから通っている子どももいるのだから、通うことは苦痛ではないから、何とかしてもらえないかということ在地元の議員さんからもお願いされたのです。それは、私の一存ではできないので、地元の方に協力いただかないといけない話であるということで終わったのですが。

本当に地域のためには、存続することはいいのではないかと思ったりもするのですが、それは大人のエゴであって、子どもたちのためには、やはり入れ替えをします。小中一貫教育も確かによいことですが、もし新陳代謝があつて、外から入ってこられるような、沼島中学校に行きたいという希望があれば、また考え方も変わってくるかもわかりませんが、全く「井の中の蛙」というような、一か所で教育するというのは、子どもにとって本当にかわいそうだと思います。このたびも卒業生が1人、卒業式は1時間ほどで終わったのですが、逆にいったら、子どもたちは嬉しいのかもわかりませんが、我々外からみる者にとっては、卒業生1人とはかわいそうだと思います。

この再編には反対ではないのですが、何とかそういうような形で、子どもが成長するような方法を考えてやって、教育委員会指導でやっていただきたいと思います。地域の声を聴くことはよいことなのですが、ある程度の方向性をつくって、進んでいく方がいいのではないかと思います。

以上、私の意見です。

【守本市長】 ありがとうございます。

ほか、ございませんか。

【宮崎委員】 私は、倭文中学校の件についてなのですが、私は広田中学校の出身なのですが、私が小学校6年生の時、多分34～5年前に初めて統合の話が出たと記憶しております。その時も話がいろいろあつて、頓挫していったのですが、その時から言われていたことは、やはり統合するにあたって、広田と倭文は、昔から小学校の頃から付き合いもあるし、そういうことでいろいろ話があつて、そういうことをよく話をしておりました。

それで今回、この合同クラブの活動、今まで統合するありきで、こんな話があつたので、こういう合同クラブというのを今回、案として聴きまして、これはこれで保護者としては、子どもにしても、ちょっと楽しみではあるのかなど。どういうふうになるのであろうかと。今まで南あわじ市でも合同中学校の活動ということほとんどしたことのない状態で、倭文の保護者に聴きましたら、時代の流れでしかたのないことかもわかりませんが、できることなら残してほしいなど。いろんな意見交換会に行きましたら、反対の人たちが多数参加している中で、賛成の保護者の意見も聞くのですが、実際に子どもたちのために思ったら、残す方がいいのか、統合する方がいいのか、

と言われれば、すごく難しいところがあると思うのですが、この形であれば学校は残る、子どもたちはクラブ活動の選択肢の幅が広がる、これは広田中学校の方にしてもどんな成果が得られるのかという、今までそんなことを考えたことがなかったので、やっているところを見たいなと少し思います。その形になったときに、学校として扱いもなかなか難しくなってくることもあるかと思うのですが、できることなら1つに統合になった方がいろんな形で具合がいいのかわかりませんが、この案はこの案でちょっと興味のある案かなと、私は思いました。

【守本市長】 ありがとうございます。

【山下委員】 私も皆さんのお話をお伺いしまして、統合に反対しているところは、部活動のためとかの理由があるわけなのですよね。倭文中学校以外の中学校に行っていると。難しい問題だと思います。

子どもたちのために、ということが1番になってくると思いますが、昔からのいきさつとか、いろいろあるのですよね。いろんな問題があるので、全部の意見を聴いていたら前にはいきませんが、そこは市長さんの判断になってくるのではないかと思います。

【河上委員】 私は、組合立学校そのもの鮎屋地区の者で、広田村から分村して、納と鮎屋が洲本市になったのが小学校3年生の時だったと思いますけれども、広田を通して学校に行くのが至難の業で、広田に着いたら石を投げられていました。川べりを歩いて学校へ行っていたのです。道を歩いていたら石を投げられたり、ロープを引っ張られたりしたので、群をなして川べりを歩いて学校に行っていました。それは親に言われて石を投げたりしていたと思うのですが、子ども同士は、どうもないし、今でも小中学校の時の同級生とは仲良くしています。しかし、行政合併のからみで5年生くらいまでは、しこりがあったように思います。それは、昔の話ですけれどもね。

統廃合を考えるときに、教育論と地域論という、2つが議論の対象になっているのですが、文科省は今の適正規模・適正配置を出したときに、2年前ですかね、強く教育論だけ出てきてくれていたらよかったです。地方の方から地域論、いわゆる学校がなくなれば町の灯が消えるといったことが出てきたために、それも考慮しなさいよ、ということが付け加えられたことが、今じゃまになってきているように思うのです。特に中学生の思春期の同年代の多様な考え方に触れるということからすれば、中学校はいっしょになるべきだと思います。うちは、中川原がそうだったのです。かなり厳しかったですね。説明に行ったら物が飛んできてましたしね。それでも子どもたちは、なんら抵抗もなく、ただ遠いのはバスに乗って少し眠たいときもありますけれども、慣れましたよと。子どもの集団での中での問題はなにもないと思います。思春

期の多様な考え方に触れることによって、人間性を培うというような教育論でいけば、我々の方の行政サイドがやはり方向性を示すべきだと思います。灯が消えるというのは一時のことだけのものだと思いますけれどもね。

では、小学校がなくなって、子どもの全部出ていくのかといえば、夜になったら帰ってきますからね。それよりも、地域のいろんな行事に地域住民の一人として付き合いをすることの方に地域論を唱えたとすれば、そちらに軸足を置くべきであって、教育は教育論を優先すべきであると思います。洲本の方も複式学級の学校が小学校で2校あって、中学校はないのですが、中学校も非常に少ないです。自然に校区外手続きをして違う学校に行きつつあります。恐らくもう近々、小さい中学校2校は今がタイミングかなと思っております。動き出したのを機会にさっといこうかなと思っております。うちの場合は、親御さんは、そうは思っていないように思うのです。ほとんどは、子どものしたいようにさせて、大勢の中で好きな部活動がしたいのなら遠くてもしょうがないかなと思っております。本当に揺れるところです。特に有権者に支えられている市長さんは、揺れると思うのですが。

【守本市長】 これに関して言うと、あまり有権者がどうのこうのって気にする思いはないのです。ただ、問題になっているのは、倭文と沼島の話だと思うのです。多分、津井はそれなりの人数がおりますし、だいたいこれでいいのではないかなと思うのですが、私が思っているのは、こういう感じなのです。倭文の方には、市長になる前ですけども、いろんなところを回っている中で、現役のおかあさんというか、かつてのおかあさんといいますか、3回ほどお話をしたことがありまして、やっぱり1つは、部活動の問題というものがあったのです。部活動の問題があるのですが、「学校の授業の方はどうですか。」ということ言えば、倭文は非常によかった、と言うのですね。人数が少ないので、ものすごく丁寧に教えてくれるし、そのうちの一人は、先生に目をかけてもらったということがあるのかもしれませんが、非常におとなしい子どもであったのが、プラスバンドとか倭文はよかったのですかね。そういうのもやり、生徒会もあり、結局、三原高校に行って、その流れで生徒会もやって。だから多分、最初から大勢の中だったら、ああいうふうにはなっていないか、という話もありましてね。もしも、部活動が大きな一番の問題だということであれば、それは解決の仕方があるのではないかと。また、車で行ったらそんなに距離ありませんね。

また、一方で広田中学校はグラウンドが狭いという問題があります。するとお互いにこういうふうに行くと、例えば野球は広田でやり、サッカーは倭文でやり、具体的にどうするのは別にしまして、そういうような形でやると、お互いメリットですよ。そういうようなこともありまして、私は、倭文はそのまま当面やってみて、またやっぱりそれで弊害が出るようであれば考えないといけないかもしれませんが、やっていったらどうかと思っているのです。そこは、教育長とほぼ考え方は変わらないと思う

のです。

沼島の話はですね。ここはすごく悩ましいところなのですが、ある意味こういう言葉を使うことは適切かどうかわかりませんが、教育指導要領が変わっていくわけですよ。それに対してキャッチアップをしていかないといけない。それを先導するような形がとれるのではないかと思っております。逆に言うと、そういう能力のある先生を送り込まなければならないということでもあるのですけれどもね。これからいろんな形で生活に密着した知識の活用ということを求められているわけですが、それをやっていくそのスタートというのは、かなり丁寧にやっていかなとけなくて、そういうことを先導してできるのではないかと思っております。上手にやれば、そんなに効果はないかもわかりませんが、逆に灘あたりからは、沼島に行ってもいいのではないかという子どもも出てくるのではないかという、これ半分期待です。見通しというより、期待なのですけれども。当面、そういうことにがんばってチャレンジしてみても、「やっぱり、これは難しい。」ということであれば、また考えてみたらいいのではないかと思っております。これは、私の思いで、ちょっと教育長からもコメントしてもらった方がいいかもわかりません。

【浅井教育長】 市長が言われるように、その2つについては方針のところ、「当面」ということを考えております。今の時点では、この方向が子どもたちにとって、よりメリットがあるということで方向性を出しております。この取組をやっている中で、デメリットの方が大きくなってくるといようなことがあれば、また方向を考えていこうと思っております。しばらくは、このような方向で取り組んでいこうかなというふうには考えております。

【守本市長】 このコミュニティの話は、これは小学校がどうした、中学校がどうしたということとは別にですね、やはり地域づくりというものは、やっていってもらわないといけないと思っております。ただその中で、基本的に皆さんは地域づくりという、若い人をまた呼び戻してというところもありますので、そういうところと相まって人も子どもも徐々に増やし、地域も元気にし、ということもやりながら体制を整えていくというシナリオを描きたいな、という気持ちがあるのです。

私自身は教育者であったことはありませんので、教育者として感じられるというのは、先ほどいろんな人とのふれあいとか、これは非常に大事なことだと思うのですが、その感覚の違いというものは、どうしてもあるのかもしれない。ただ、東京にいますと、少人数クラスについての憧れというものが、ものすごく強いのです。そういうこともあり、非常にある意味もったいないという感じがしまして、ただくっつけばいい、というものでもないだろうという気持ちもあるのです。

【河上委員】 うちも某校区、規模も小さいのですが、感性が豊かなのです。作文、絵画、

こういうものが何でかわからないのですが、格別に秀でているのです。その時に突出しているということではなくて、継続的です。これは、あの地区という名前を隠していても、わかるのです。洲本では、そういうところが1か所あるのです。地域的に表現できるものがずっと持っているのかもわかりません。

【守本市長】 デメリットというものは、工夫が必要だと思うのです。特に沼島に関していうと、いろんな活動を他の地区の人を連れて行っていっしょにやるとか、中学校も合同の手引きみたいなものを作っていくとか、或いはどこか別の離島の学校と提携してインターネットと結んで意見交換をするとか、工夫もしないといけないと思うのですが、逆にいうと、そういう工夫をやれる学校でもあるのですね。

なので、自分の気持ちとしては、やってみたいなど、というところが強くあるのです。この方針が、教育委員会事務局の方からあがってきた時は、これでやってみようではないか、出してみようではないかということで、ここにあるわけなのです。

どんなものでしょうか。

【數田委員】 市長さんの話の腰を折るようですけれども、少規模の学校でうまくいった人もいるのですが、私も島内のほとんどの高校に勤めましたが、小規模校で非常に手厚く、しょっちゅう声をかけられてきた生徒が大海に出た時に、それがないと学校に行く元気がないというか、それが当たり前になってしまって、そこで挫折する子どもを結構みてきました。その時に、全く逆に小規模校で鍛えられて、自分の表現力とかもすばらしくて、生徒会をどんどんやっていくという小規模校もありました。小規模校を継続するにあたって、デメリットを将来のその先の先を考えてする教育が必要ではないかと思うのです。小規模校でしたら、可愛いかわいいで、「〇〇ちゃん」という感じの流れで大きく育ってきたときに、次に進学したときに、自分から語り掛けない限り声をかけてもらえないような状況の中で、どうやっていくかということも、人間の成長というか、そこらが小規模校の課題かなと思います。それがうまくいっている小規模校も確かにあります。でもどちらかというと、小さい学校であれば小学校から知っているし、私もそうだったのですが、本当に狭い中で「あの子は、どこそこの、誰やさんの孫やで」みたいな流れがあって、高校へ行った時にとっても解放されて感じがあったのですが、そういう人もいれば、逆にそのつながりが切れた時に、1人の足で歩いていけないようなところがあって、そういう生徒をたくさんみてきたので、小規模校の課題は、メリットはもちろんなのですが、デメリットも教師集団で、何年か先を見通した形での教育が必要でないかと常々思っていました。だからメリットをもっともっと深めていくような方向で考えていったらいいのではないかと思います。

【守本市長】 いろんな島外のコンクールとか部活動もあると思うのですが、そういうと

ころで、外と触れあう機会というものは、相当に意識的につくっていかないといけないだろうなという気持ちがあるのですね。そういうことを逆にいうと、地域でやるというプランをたてて進めるということになると思うのですが。

【浅井教育長】 人と議論をするときに、メリットとデメリットが必ずあると思うのです。

どちらに重点を置いて話をするかによってずいぶん意見も違ってくると思うのですが、数田委員が言われたように、人生という長いスパンで見た時に、一般論として多様な子どもたちの中で育つ方がいいと。それよりも、市長が言われたようにメリットを打ち出されるのだったら、そちらの方に目を向けてもいいのではないかと。

今、教育委員会が所管する施設を全部回って、意見交換をしています。先日、沼島小中学校に行かせてもらいました。そのときに、統廃合についてどう考えるかということ管理職だけではなくて、他の先生方の意見を聴きました。その時に、沼島中学校出身の先生が1人おられて、その先生と今のような議論をさせてもらいました。その先生は、ここで育ったからこそ、今の自分があるのだと。自分は小規模校のメリットを最大限に活かしてもらった中で成長させてもらったと。そういうふうな意味では、大規模校に勝るメリットは自分にあった、というふうに聴いております。ただ、繰り返しになりますけれども、いろんなメリット、デメリットがあります。小規模校でもいろんな環境が違くと。条件が違くと。その条件が違う中で、どの方向性を追ったら、子どもたちにとって一番よい環境になるかということを中心に、考えさせてもらった結果、こういうふうなことでお願いできないかなということ、案として出させていただきました。

【守本市長】 こうしませんか。この倭文と沼島中学校で、具体的に何ができるのかと。

もう少しイメージが湧くように、ここでこういう形でやるのが小規模校のメリットがもっと活かせるとか。先程、他の先生方がおっしゃった、やっぱりもまれるということがないという、そこのデメリットをどういうふうにしてカバーするかというプランを一回たててもらってですね、もう一度お示しをさせてもらって、これならやってみる価値があるのではないかと。当面ですよ。やってみる価値があるのではないかと。というようなことを考えていただいたら。こんなんじゃ、とてもだめだということになるかもわかりませんが、ちょっとそういうことを少し考えていただいて、これは、いつ何を決定すればいいのでしたか。

【山見教育総務課長】 倭文、沼島中学校については、年限の定めはないと思います。西淡志知と三原志知小学校については、大規模改造の時期がすぐにやらないといけない状態で、平成31年度に空調整備の時期が来ております。それを待つのかどうかを含めて考えていかないといけないと思います。

【守本市長】 というのは、津井はこのままでいいですよ。三原志知と西淡志知はどういうスケジュールでいくことになるのですか。

【山見教育総務課長】 三原志知小学校については、最短で今年度に保護者と地域との調整ができて、来年度に準備して、早ければ平成31年4月から統合と。

西淡志知小学校については、松帆小学校のもう一つの校舎の大規模改造工事が平成31年度に計画しております。その後ということになると、平成32年4月になるようなことかと、今の時点では考えています。

【福原教育次長】 基本的には、統合については、平成28年度に教育委員会の方が保護者、地域の意見を十分に吸収してくるということをやってきて、それを受けて、平成29年度には、ある程度の方向性を出して、地域の方にご理解をいただくような計画でありましたので、今年度は、要するに回答を出していくことになると思います。いつということではなくて、教育委員会としての、市としての対応になると思うのですが、ある程度の方向性を打ち出して、すぐではないのですが、最終的にはリミットはいつかという話になってくるのではないかと思います。先ほど言いましたように、志知については、改修工事というものが目の前にありますので、それが一番わかりやすいのかなと思います。あとは、先ほど言いましたように、津井については昨年度もいろいろやっていますので、地区は不安がっていますので、なるべく早く回答を持っていかざるを得ないのかと思います。沼島についても、いろいろありますので、最終的には意見の多い方向に向かうのではないかと思います。地区にも説明が必要ではないかと思います。

【守本市長】 こうでしょうか。津井幼稚園は、存続するという方針はいいと思うのですが、やっぱり地元の強力な要請を受けて存続をするので、地元は相当の努力をしてください、という話とセットにしていけないといけないと思うのです。それをきっちり、どういった言い方をするかということを考えて上で調整すると。ただ無条件に当面存続ということと違いますよ、ということの説明が必要だと思います。

三原志知と西淡志知は、もしもご了解を得られたとして、基本的に統合が行政としてこういうふうに考えています、という回答をして協議に入るとということにさせていただいて、倭文と沼島は、ちょっと継続審議にさせていただいて、まだ結論が出ていません。僕が外部から考えを聞かれたら、少人数を大事にしたいという気持ちがあるということは言うてしまうことがあるかもしれませんが、行政としての結論を出したわけではないということで、むしろ学校ともいっしょになって、今後の教育をどういう形で進めていくか。仮に存続するとですよ。それを元にまた議論させていただ

て、結論を出すということでしょうか。

【福原教育次長】 今までの再編計画は、統合ありきで出たので、その部分を継続してメリットを探していこうということになれば、地区もわかりやすいのではないかと思います。地区の方もどうなるのだろうと不安がっていますので、その辺をクリアすることが必要であると思います。

【守本市長】 ただ、これはゆるめると一気にいってゆるい方にいってしまうということもあるので、やっぱり継続審議の部分は、決して当面存続という方針で、動いているわけではなくて、まだ中でも議論がまとまっていない、どちらの方向に動くかわからないという状態にしておく必要があると思うのです。その上で、もう一回この学校のことについての対応をしていただいて、先ほど沼島の先生の話をしてもらいましたが、学校が継続すれば、こんな教育をやりますということを考えていただいて、それが説得力を持つのであれば、やってみるといって方向にしてはどうかと。ただ、それはうまくいかなければもう一回考えてみると。そんなことで、やらせていただくということでしょうか。

【轟委員】 倭文の場合は、若干人数がいるので、技術的にはさほど市長が言っているやり方できると思うのですが、沼島の場合は、1人2人とかいうので、大変技術的に難しいのではないかなと思うのです。仮に勉強をさせるのも成績をつけたとしても沼島は、1人や2人になってくるので、そういった中に入れていくのは大変技術的に難しいので、我々ももっと勉強をしていかななくてはならないと思うのです。進路指導も難しい、いろんなことが出てくると思います。それらを含めて存続ということを考えていかななくてはならないと思います。

【守本市長】 継続審議という形ですね。そういう整理をさせていただきます。ありがとうございます。

【守本市長】 次に行きます。

教員の資質向上についてです。これは、1つには、昨年度に校長先生とか教頭先生に不祥事と呼ばれるものが3件ありまして、保護者の方には、いろいろご心配をいただいているところでございますし、またそれだけではなくて、アクティブラーニングといった教え方も変えていかななくてはならないという、それにどう対応していくかという課題もあります。

それでは、学校教育課長からその点を説明していただきたいと思います。

【山川学校教育課長】 それでは私の方から、説明をさせていただきます。

本年度、教職員の資質向上については、大きく2つの項目で考えております。

1つ目が綱紀肅正・モラル向上について、2つ目は教員の指導力向上についてでございます。

綱紀肅正・モラル向上につきましては、4点あります。非違行為防止研修の実施ということで、非違行為の研修につきましては、昨年度から繰り返し行っておりますが、本年度最初に3割ほどの市の教員が参加し、6月2日の教職員研修につきましては、教育事務所教育振興課長の講義を中で、項目をあげてこの非違行為防止について講義をしてもらう予定です。全体時間の3分の1程度を使ってお願いしています。

2点目としまして、体罰防止研修です。体罰事案がございましたので、「No!体罰」の資料が県の方から出ておりますので、それを活用した研修を各校で実施してもらいます。

3点目は、各中学校に派遣しておりますスクールカウンセラーによります「カウンセリングマインド研修」、高圧的な力による指導ではなく、力によらない児童生徒の心に寄り添った指導方法をカウンセラーというまた違った形の方から学んでいただくと。これは以前から行っておるところではあるのですが、対話を通した指導ということ、特に中学生はなかなか難しいと思いますので、そういったことを学んでいただく研修を実施します。

4点目は、綱紀肅正についてです。職員会議や学年末の綱紀肅正通知等を活用して、各学校長より訓話を行うことで、4月の校長会の方で校長先生自らの言葉で先生方に語ってくださいということで、お願いしているところであります。

2つめの教員の指導力向上についてですが、まず、ゆずりはプロジェクトです。

昨年度より実施している事業です。市内6校、組合立1校に20万円の補助金をつけております。その中で、大学教授等を3回以上招聘して研究を進めるということで、各校のテーマに応じて教員の指導力向上を図っております。そのテーマの中には、アクティブラーニングであったり、特別支援対応であったりとか、昨今の必要なものが含まれております。その各校の校内研修に他校の先生についても参加できるように、この制度はしております。ですので、A小学校の授業に他校何人かの先生方が参加できるというものでございます。最後、研修の成果物として「研究のまとめ」の方を市内全校に配布し、研修内容を広く共有しております。

2つ目としまして、上記以外の学校に5万円の補助金を出しております。これを使って各校の研究テーマに応じて校内研修を充実させてください、ということで進めさせていただいております。

3つ目、4つ目は、関連した内容になっております。

1点目として、小中連携教科指導研修の実施です。小学校では、教科担当者を集めた教科研修というものがございますが、その際に中学校で指導的立場にある教員を派遣して、小学校教員の専門性を高めるということを考えております。これによりまし

て、中学校教員にとりましては小学校の現状について理解ができるということで、双方にとっても小中連携を進めていくうえで、プラスになると考えております。

4番目の中高連携教科指導研修というのは、これを中学校と高校の間でできないかということで、この研修を進めていく予定であります。

次に中期的な取組としましては、南あわじ市教育センター構想で、南あわじ市の教育の指導力向上を図ることの要として「南あわじ市教育センター（仮称）」を立ち上げて、教職員の研修・研究の場として、市全体で教職員の資質向上に取り組んでいきます。また、教育や青少年健全育成等に関する市の重点的課題解決についても、集中的にそこで行うことで、よりセンター的な機能を高めていきたいと考えております。これは、中期的な取組として構想しているところでございます。

以上です。

【守本市長】 ありがとうございます。

それでは、今の教職員の資質向上につきまして、ご意見、ご質問がございましたらお願いします。

【河上委員】 この綱紀粛正にエネルギーを費やすのが情けないような気がするのですが、非違行為の結末が何を待っているのかということをもっと考えてほしいなと思います。後に何が待っていますかということは、すぐにわかると思うのです。最近、具体例、詳細なことを出して言っているのですが、何か自分だけは門外生のような受けとめをしているような感じがするのです。これぐらいではすまされない、何が起きてくるのか、すべてなくなりますよということを厳しく言っております。市の職員でも入庁したときの宣誓書に何を書いていったのか、もう一度思い出すように言いたくなるような職員がときどきいます。これが許されている社会もだめだと思うのです。公務員としての公僕の意識を今一度、全部がそうだと思います。中央省庁で今、起きていることもそうだと思うのですが。

もう1つ、指導力アップの件ですが、私どもは淡路でもレベルが低かったのです。いろんな会合に行ったら、洲本の先生と話が合わない。そういうことが長いこと言われていまして。それはちょっといけないと思って。更に淡路は学校規模が小さいが故に職員数が非常に少ない。横の人にちょっと教えてもらうとか、近い年齢層とか気安く教え合いするような雰囲気が取れない状況なのです。職場の年齢構成がそうなっているのですね。だったら肩肘はらずに学び合いする場所を用意するからやるか、ということで5年たつのですかね。私どもは、講座を持っていまして、1つは教育委員会事務局が用意した時代の課題解決できる資質能力を向上するような講座を持つ。半分は現場が求めるようなものに。半々にします。よくこの業界がとる1校1名が受講しなさいということにはしていないのです。事務局がよかろうと用意した講

座、お金をかけてやった講座に5人や7人の受講生というときもあるのです。ところが、それに反して定員オーバーすることもあります。

もう一つは、落ち込む先生が何人かおられます。沙龙的な場所にしようと。それも同僚なんかで愚痴を言える人数構成でもないし、こんなことを話題に出したら恥ずかしいのかなということがあるのですね。そんなことにも自由に使ってもいいですよ、ということにしているのです。センターに寄って、愚痴を言ってエネルギーを蓄えることもいいのではないかと。結構、流行ってますね。そこへ行けばデータも全部蓄積してありますので。あとネット環境でそのデータを十分に取り上げるようにこれから構築していく必要があると思っております。今、そういう人間関係で少し疲れるような人、若い方も多い。こういう部分では、「センターにちょっと行ってきます。」と言って息抜きもできますし、このようなものが必要な時代ではないかと思えます。いいことだと思います。あとは、受講生がどんどんいいものに仕上げていったらいいと思います。そうでないと、やらされている感だけで、自分のものにならないと思います。以上です。

【守本市長】 ありがとうございます。

この取組の項目というか、内容の進め方について、大変に参考になるご意見をいただきました。ありがとうございます。また、このセンターを設置するときには、いろいろご指導いただけたらと思います。将来的には、いっしょにやっていったらいいのではないかということをお正直思っております。

【岡委員】 昨年も少し言ったこともあるのですが、淡路の学校は小さい。小さいから、その同じ学年の先生がいない。今、授業をして、つまずいても先輩はいるかもわかりませんが、2クラス、3クラスあれば同じような単元を進んでいるから、指導につまずいたときに聴きやすいというのが、複数クラスがあったらいいなど。学年に1クラスしかなかったら、聴いたら教えてくれる人もいるだろうけれど、なかなか聴きにくい状況が学校にあるのではないかと。その中で、この教科指導研修がここに書いてくれているので、これは、すばらしいと思います。私も現場にいるときから、なかなか教科の研修というものは少なかったように思います。でも、教科指導の研修というものは、多ければ多いほど、特に若手教員にとってはいいのではないかと思いますので、この教科指導研修を充実させていただけたら、非常に有難いと思います。

【守本市長】 ありがとうございます。

【山下委員】 非違行為防止研修に関連した、昨年度問題を起こした先生のことを、周囲の人はそんなに悪い印象を持ってなかったということをお聴きして、何でそんなこと

をしたのだらうということを感じておりました。パソコンのニュースを見ていたら、このようなことが毎日のように流れております。他の教育委員会の対策の状況とかも聴いて、参考にするということもいいのではないかと思います。

学校の先生はストレスがたまりやすいと思いますので、その対策についてもお願いしたいと思います。

【守本市長】 ありがとうございます。

【宮崎委員】 私自身は、中学校3年生の子どもがいて、私が子どもの世代の時は、ここで言う体罰のぎりぎりオッケーの世代だったのです。今思うところは、先生も私たちが叱ってくれるということは、とてもエネルギーがいることだと思うのです。今の時代は体罰は全体にだめだという話の中で、私たち親としたら子どもがしたらいけないことをしたら、ちゃんと叱ってほしいということが常々ありまして、それを今の先生がいろんなエネルギーを持って叱っていただけるという形を取っていただけたらと思うのですが、更に私たちが言われたのは、子どもの前で先生の批判はしないと。そういうことをすることによって、言葉が悪いのですが、先生をなめてしまうということが多々あるということやずっと教わってきたので、子どもの前ではそういうことをしないようにしようと、私自身は思っているのですが、他の親がどういうふうにされているのかわかりませんが、小学校だと和気あいあいといけるかもわかりませんが、中学校にもなると子どもの態度も変わってくるし、それに対して指導の仕方も変わってくるのかと思うのです。

そういう中で、私自身が思うのは、そういうことを周りから批判があっても叱り続けてくれる気持ちの強い先生が、授業力もそうですが、そういうこともできたら嬉しく思います。

【守本市長】 ありがとうございます。

【轟委員】 私は、この教職員の資質向上というのは、当然、専門の教科についてはプロですから、教えるのは当たり前です。子どもの生活指導とか、教科指導もすべて含めて子どもとのコミュニケーションをいかに取ったかということで評価されると思うのです。今、宮崎委員がおっしゃったように、家で変なことをしたら、おとうさん、おかあさんに怒られると。先生も子どもとのコミュニケーションを取っていれば、叱ることができると思うのです。ところが、子どもとのコミュニケーションを取ってなくて、ただ単なる一先生だったら子どもも信頼をしないのではないかと思います。

孫の話で申し訳ないのですが、孫が小学校一年生にあがって、毎日送っているのですが、その中でやはり毎日の出来事を教えてくれるのですが、その出来事の中で、先

生にもっと叱ってほしいなという面が若干あります。それは、給食の時に、好き嫌いがあると。その好き嫌いを小学校では食べなさいという指導はするのですが、嫌だったら食べなくてもいいよという、そのことを許すようなことではいけないように思うのです。アレルギーがある場合は別ですが。普通だったら食べさすべきではないかと思うのです。強引ではなくて、話をして食べさせていくというような指導をするべきではないかと思います。それには、十分な子どもとのコミュニケーションが必要ではないかと思います。

【守本市長】 ありがとうございます。

【數田委員】 1つは、その教職員の人数が少ないということで、学年に1人の先生なので、先生方も孤独というか孤立無援という状態があると思うので、思い切って何かをしようと思ったら、学校として支えているのだという気持ちがあれば、思い切った指導もできるのではないかと思います。また自信を持って指導ができるのではないかと思うのです。学校全体として、何年生はここまでとかいう、そういう話は学校全体では話をされるのですよね。ただ、「あの先生は、こうや」と子どもが勝手に評価して、手を抜いたり、ちょっとこの先生はがんばらないと、とかどの学校でもあるのですが、それが教科については、やはり学校として何か一貫したものがあって、しょっちゅう研修をする中で、支援体制をしっかりと取っていれば、孤立無援の先生方を追い込んでいかなければ、しっかりした支援体制が孤立を克服する手立ての一つになるのではないかと思います。

もう一つは、子どもの理解が大事だと思うのですが、高校に入った時に、子どもについての情報が少なかったのですね。個人情報ということで、最近はやっていいのかわりか難しいところもあると思うのですが、ここに小中、中高連携が必要となってきます。生い立ちとかも含めて子どものことを全部理解できていないことが間違った指導をして子どもたちを追い込んだり、学校から離れていくことになったりします。だから、保護者のことも含めて子どもを取り囲むすべての情報を学校全体で共有し、正しく生徒理解をしていくことが必要ではないかと思います。

私は現職のとき、不勉強や未熟さのため、子どもたちにずいぶんひどいことを言ったことへの反省があります。特に、発達障害などについては適切な対応ができていなかったように思います。現在は、研修や学習する機会も増えましたし、現場の先生方は大丈夫だと思います。ただ、気になることは、最近不登校や引きこもりの相談を受けることがあるのですが、学校へ行けなくなったきっかけが、先生方の言葉が胸に突き刺さったというようなことをよく聞きます。だから、やはり正確な生徒理解は大切かと思います。さらに、先生方は、様々な場所や立場で情報を収集したり、学校を超えての情報交換が必要でないかと思います。そうすれば、子どもたちが順調に成長し

ていくのではないかと思います。

【守本市長】 ありがとうございます。

【浅井教育長】 1つは、不祥事が続いたことに教育長として申し訳ないと感じております。そのことについて、校長また教頭、管理職、一般の先生に話をするとき、必ず一番最初に言うフレーズがあります。それは、ほとんどの先生方は、朝早くから夜遅くまで本当に一生懸命に子どものために働いてもらっていると。それは、自覚されたうえで話をさせてほしいと。これを必ず言います。不祥事が続いたことはありますが、ほとんどの先生方は前向きにがんばってもらっていると。という状況で、河上教育長からも話がありましたけれども、教師として、公務員としての自覚を再度促していくと。そういうふうなことを基礎にしながら、私が今、管理職とか、学校に出向いて行った話をさせてもらっていることは、その不祥事の問題については、その人の心の中にある割合が非常に高いと思うのです。その心を変えていかないと、こういうふうな案件はなくなるとではないかと感じます。再度、自分はなぜ教師になったのか、子どもたちの成長に関わっていく喜びとか、その責任の重大性とか、そういうふうな分野を再度自覚するというか、そういう対話をこれからもやっていきなと思っております。唯一の解決方法は、そこではないかと思っております。

また、数田委員の方から話があった、支えられているということがわかるということが大事であるというお話を聴きましたけれども、対話を通して教育委員会は校長先生を支えていますよと。管理職を支えていますよと。先生方をいろんな教育施策等を通して支えていますよと。そういうふうになるような取組をこれからも是非進めていきたいと考えております。

自分が教員として、その仕事をする喜びみたいなものを自覚することが、子どもたちに自信を持って怒るのではなくて、叱ることができるということに繋がっていくのではないかと考えております。

回答にならないかも知れませんが、そういったことを感じながら、今、聴かせていただきました。

【守本市長】 ありがとうございます。

全般的に、この項目についてご異論があるということはないかと思うのです。進め方の問題だと思うので、今、指摘頂いたことを十分に踏まえて進めていくということでやらせていただければと思います。

ちょっと、先ほどの再編の問題で、これだけ確認させていただきたいと思うのですが、倭文のクラブの合同なのですが、これに関していうと、この合併するかしないかに関わらず、進めていくことができる話ではないのかなと思うのです。ただ、変な形

で伝わると、なんかメッセージがね、「これが合併の前提ですか」みたいなことに受け止められると、その辺は十分に注意しながら、可能であれば、これは早く実現できればいいのではと思うのです。そこ、よろしいですか。

トータルの方針を決めるのは、別ということですか。

最後にですね、「今後の南あわじ市の教育について」ということで、市長が考えている教育政策についてお話することになっているのですが、2点だけお話をさせていただきたいと思います。

1点目は、私が経済産業省のときに、キャリア教育とか労働とか担当しておりました、当時、社会人基礎力、前に踏み出す力、考え抜く力、これを学校でも育ててください、ということを経済産業省が学校に言って回っていたのです。そんなことを担当していたこともあり、割とその学校教育のことも勉強させていただいて、大きな方向というのは、よく言われる日本人の子どもの国際的な学習能力について、OECDテストですが、当時あれが大きく舵を切っていて、PISAですね、舵を切っていて、例えば数学の問題がそのまま出てきたりしなくて、なんか非常に難しいバスと船の時刻表が出てきて、これで自分が旅行に行くスケジュールを作りなさいとか、ものすごく難しい哲学的な問題に関して、今、船の上でこの船が沈みそうになって一人で助けた時に、もう一人乗せたら船全体が沈むかもしれない。だけど助けたい。どうすればいいのか、というようなことを課せるといようなことになっていまして、日本人の子どもは、その後者の問題はまるっきりダメですね。自分たちで判断する部分ということで、最近はこのようなことをしているかもわかりませんが、当時は非常に白紙が多かったのです。そんなのがありまして、そんなことも踏まえて、今後の活動にも活かして行って、大学の受験改革というのは、そういう方向にもシフトしているわけですね。学習指導要領も、アクティブラーニングという形で、考え抜く力というものがありましたけれども、自分で考えて、自分で判断すると。この答えがあるのではなくて、そんなふうにシフトをしていっているわけなのですが、したがって、そういう教育というものがこれから求められていくということだと思っております。これは、受験がどうだということではなくて、大学を出て大きな企業に就職すればいいという時代ではないので、そういうふうなことだと思っていまして、ここで具体的に何をするかということとして、これにはいろんな専門の話があると思うのですが、やはり非常に重要なことは、この一つ一つの知識があって、現場の何か経験と結びつく、ということだと私は思っていまして、そういう意味で、3つ提案させていただきたいと思っております。

1つは、防災教育です。これは、浅井教育長の得意分野で、すでに始めていただいておりますが、防災というものを通じて、自分の命、周りの人の命を救うために、今、何をすべきかということ自分で判断をして動く。また、人と協力して動くというトレーニングができるような、全人的な防災教育を進めていきたい、といのは1つです。

もう1つは、淡路島には、ちょっと出るといっばい歴史の遺産というものがあります。こういうものを上手に使った授業ができないのかと思っております。それがあある意味、郷土を愛する心につながっていくのだと思うのです。

3点目は、南あわじ市でしかできないことですが、人形浄瑠璃というものをうまく使って、若い人たちもだんじり唄をうたっている人はいっぱいいますよね。浄瑠璃に馴染んでいる人はたくさんいます。この浄瑠璃というのは、ある意味、人間の極限の感情を表現していると思うのです。シチュエーションは無茶苦茶なところもあるのですが、お家のために自分の息子の首を切るとかね。いっばいそういうのがあるのですが、題材を選んで、私が非常に印象に残っているのは、友球さんという人がおられて、その方の仮名手本忠臣蔵を聴いたときに、切腹を命じられる場面がありましてね。その切腹を命じられる場面は、その場面はすごく冷静で、ところが、幕府の役人が一回外に出て行って、その後、「殿中でござる」と止められて「殺しておけばよかった」というシーンに変わるところがですね、もう声色からスピードから何もかも全部変わるのでね。そういうテクニックといいますかね、非常に感情表現のテクニックとかが盛り込まれていると思うのです。上手にそれを体系化というか、授業になるような形にして、その感情表現、表現力ということの方向でやっていけないかと思うのです。そういう抽象的なものを授業に活かせることの得意な教育コンサルタントみたいな人がいまして、友人なのですが、その人に協力いただこうと思っております。そんなことを考えていたら、文科省から通知が回ってきて、学校にいろんな外部のリソースを取り入れてですね、表現力の教育をするものに補助金を付けます、というようなものがありまして、その中に、「人形浄瑠璃」って書いてあるのです。それは、単発なものなので、もうちょっと体系化してやっていったりすると、「南あわじ市の教育は、こうである。」。ひいては、是非、淡路島全体でやっていけたらな、と思うのですが、そういうことを取り入れていくような手触り感のある教育というか、そういうことを順次やっていけたらと思っております。

2点目は、自分の公約の中に、シニア層の活用というものがあまして、これを教育のところでも十分にありうると思っておりますので、先生は本当にお忙しいので、先生のOBの方とか、いろんな方がいらっしゃると思うのですが、例えば資料づくりとか、学校の雑用とか、来年度にいろんな分野でこのシニアが活躍できるところを具体的な仕事をリストアップして、またそういうことをやれる人を一方で探し出してリストアップして、それが上手にマッチングできるような、単にこれまでと同じ仕組みをしているとかだったらまらないので、いろんな工夫をしながら形をつくっていきたくて思っております。教育分野でもこういうことをやって、できるだけ先生が子どもとのコミュニケーションに集中できるような環境づくりというものを進めていきたくてというふうに思っております。

そういう2点、抽象的ではありますが、具体化させていきたくて思っております。

【守本市長】 それでは、若干、時間をオーバーしてしまいましたが、本当に活発なご審議、ありがとうございました。

この総合教育会議も、できるだけコミュニケーションを密にしながら、進めてさせていただきたいと思っておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

本日は、大変ありがとうございました。

開 会 午後4時40分